

バスケ部、躍動！ 価値ある1勝



速報版

～発行者～
崇徳高校新聞部



試合前に円陣を組み、監督の指示に耳を傾ける選手たち

6年ぶりに県総体出場

花野木監督、 三度目の正直

去る6月4・5日、呉地区において第69回広島県高等学校総合体育大会バスケットボールの部が行われ、本校のバスケットボール部は激戦の広島地区大会を勝ち抜いて出場した。県総体の本戦に駒を進めるのは、現顧問である花野木先生が指導されるようになってからは初めてのことであり、3度目の挑戦での出場となった。

（K・S）



試合前の打ち合わせ

まずは、1勝

初戦の相手は、尾三地区大会で1位の尾道北高校である（如水館高校は地区推薦で本戦に出場するため、尾三地区大会には参加していない）。勉強においても県下有数である相手校は、ピンチにじっと耐え、チャンスに一気にたたみかけてくる、勝負所を見極めて戦う手強いチームだ。

しかし、第1ピリオドから得意のスピードのある攻撃で崇徳が一気に点差を広げた。第2ピリオド序盤もその勢いは続くが、ピリオド途中から攻撃の勢いが鈍ってくる。焦りのためかファールがかさみ、テクニカル・ファール（審判への抗議などによるファール）を取られる場面も。悪い流れは第3ピリオドも続き、キャプテン佐藤さんもテクニカル・ファールを取られる。相手はそこを見逃さず粘り強い攻撃を展開し、このピリオドは相手の方が多く得点する。

New Hope

大活躍の1年生！

今年度の新入部員が30名を超えたバスケットボール部。入部した1年生には、顧問の花野木先生が熱い期待をかける選手が何人もいるそう。その中で、今大会ベンチ入りを果たし、試合でも大活躍した1年生がいた。7組の横山大嗣さん、そして10組の香出海人さん、香出さんは恵まれた体格で、シュートやリバウンド、そしてディフェンスにと大奮闘。「1回戦では、彼の働きが非常に大きい」と香出さんを称える花野木先生。

一方、横山さんは、2回戦で実力を発揮する。得意の3ポイント・シュートが炸裂、6本をゴールに沈めた。ゴール付近でも次々とゴールを決め、チーム最多の27得点をあげた。部長の住吉先生は「彼は日々、進化しています」と驚きの様子で語った。「今回の試合では、ディフェンスに阻まれ無理なシュートを打たされました。もっとうまくなって、さらに上を目指したい」と横山さん。「新たな希望」たちの活躍にこれからも目が離せない。



横山さんのフリースロー

だが、ここでそのまま流れを持って行かれないところが今年のチームの強さ。キャプテンが5ファールで退場になったりもしたが、最終的には20点以上の差をつけて初戦を突破した。「自分たちの代で県総体に出場し、花野木先生に勝利をプレゼントしたかった」とま

ずは一つの目標を達成したキャプテン佐藤さん。「一勝する難しさを改めて感じました。選手たちは厳しい場面でも、これまでの練習や試合を通して、乗り越える力を身につけたのではないかと」とは顧問・花野木先生の言葉。しかし、その勝利に酔うことなく、気持ちはずで翌日の2回戦に、監督も選手も厳しい表情を崩さなかった。

キャプテン列伝 2016

今年度のバスケットボール部キャプテンは、3年1組の佐藤諒介さん。中学1年からバスケットボール部に入部し、気がつけば、周囲も認めるバスケットボールの器用な選手だが、バスケットに対するひたむきさと強靱な筋力、いつかグッドプレーヤーになるという予感がありました」と語るのは顧問であると同時に担任でもある花野木先生。

でもある花野木先生。周囲の期待に応えながら佐藤さんはメキメキと実力をつけ、とうとうキャプテンに指名される。「背は高くないが、強い体でゴール前に存在感を発揮し、リバウンドなど縁の下の働きは、今のチームになくてはならないものになった」と花野木先生は愛弟子の成長に目を細める。最後の大会で、5ファールの退場となっ



副将の穴戸さん(左)と佐藤さん(右)

シード校の壁

2回戦の相手は強豪・廿日市高校。もちろんシード校である。得意の早い攻撃で相手を揺さぶる展開に持ち込みたい崇徳であったが、さすがはシード校、それを超える早い攻撃と堅実なディフェンスで、第1・2ピリオドは完全に主導権を握られる。後半に入ると、キャプテンの進言もあり、3年生選手を多く投入するも、点差は縮められなかった。結局、143対77のスコアでゲームセット。しかし、自分たちのプレースタイルを貫いての敗北に、選手たちは納得の表情だった。どんなに点差が開いても元気に応援してくれた観客席のチームメイトや保護者の方々に元



最後まで応援し続けた部員たち

気よく挨拶し、選手たちはコートに後にした。花野木先生は「一勝つつもりだったんですが、なかなかうまくはいきませんね。しかし、うちらしい攻撃のスタイルで得点を取ることでもできました。1、2年生は今年の強さをいい形で引き継いでほしい」と残念さをにじませながらもおだやかに語ってくれた。バスケットボール部の新たな戦いはすでに始まっている。

テニス部団体

悲願のベスト16入り



速報版

~発行者~
崇徳高校新聞部



ペアで助けあえるのがダブルスの醍醐味

法政二と接戦

2回戦

テニス部のインターハイは8月2日(火)の団体戦からスタート。個人戦では3年連続だが、団体としては2年連続2回目のインターハイ出場のため2回戦からスタート。個人戦では3年連続だが、団体としては2年連続2回目のインターハイ出場のため2回戦からスタート。

8月2日(火)から鳥取県松江市の松江市営球場で行われた全国高等学校総合体育大会テニス大会にテニス部が出場した。テニス部のインターハイ出場は3年連続。テニス部は2日(火)からの団体戦に出場し、昨年のベスト32を上回るベスト16という好成績を残した。(K・N)

岡崎の大逆転

絶体絶命からの勝利

勝利の鍵を握るのは3年の岡崎大俊さん。顧問の濱ノ園先生は「岡崎が良いショットを打つても相手が返してしまふ。相手の調子がとてもよかった」と分析す

ルスに出場するのは3年の山邊さんと2年の阿部さん。しかし全国大会のプレッシャーが実力を発揮できず、1-8で落としてしまふ。チーム内に嫌な雰囲気が出る中、続くシングルス1に出場したのは主将である3年の上野さん。目立ったミスもなく8-2と勝利を決め、チームに勢いをつけた。



テニス

3回戦

名門の柳川高校

翌3日(水)からは団体ベスト8をかけた試合が始まる。3回戦の相手は福岡県の名門柳川高校。本大会でのシード2。松岡修造選手の出身校である。



全国ベスト8をかけた大一番

この日もダブルスは山邊さんと阿部さん。「自分のテニスをやりきるようにプレーした」と話す阿部さん。しかし、この日も自分たちのテニスができずに1-8と落としてしまふ。

続いてシングルス1に出場した上野さんは8-5と勝利した。2年の岡田さんは「上野先輩がシングルス1で勝つたのは味方と相手



「ベスト8」の夢は来年以降に引き継がれる

も予想外だった」と嬉しい誤算だったと話してくれたい。1-1と追いついた崇徳テニス部。運命はシングルス2の岡崎さんに託された。しかし相手は名門柳川。一時は4-6となったが、最後は6-6に追いつく。

あと一歩のところまで追い詰めたが最後は6-8で力尽きた。ダブルスに出場した2年の阿部さんは「今年のインターハイは昨年よりも1つ多く勝つてよかった。まだまだ自分達の力が足りないことを実感した」としみじみ。団体戦では補欠としてチームを支えた岡田さんは「上野先輩と岡崎先輩の存在の大きさを知った。団体戦のメンバーであることに誇りに思う」と先輩たちの活躍を称えた。顧問の濱ノ園先生は「3回戦は全員が勝ちに行こうとしていた。いい試合だった」と話した。5日(金)からは個人戦シングルスが始まる。

第1弾

先輩から後輩へ これから頑張るあなたに

「毎日の積み重ねで 強くなれる」



実は漫画「ONE PIECE」の大ファン

テニス歴10年の山邊さん。県大会でシングルスではベスト8、ダブルスでは最高2位という実績を持つ。団体ではダブルス2を担う。今回の1日で引退となるが、山邊さんは「全国ではチームの勝利に貢献できなかったが、チームで助け合いながらベスト16まで残れてよかった」と話した。

これから後輩たちが「毎日の土手ランなど大変だが、それは意味がないわけではない。その積み重ねで強くなれる。これからは全国目指して頑張りたい」とアドバイスとエールを送る。山邊さんの姿を見て後輩たちも頑張る姿が目に浮かぶ。

拳に込めた優勝への思い、実る



速報版

～発行者～
崇徳高校新聞部



ボクシング

田村、全国の頂点へ

7月29日(金)～8月3日(水)の6日間、広島市中区スポーツセンターにおいて平成28年度全国高等学校総合体育大会ボクシング競技大会が開催された。

本校から全国の大舞台に立ったのは、3年5組の田村拓実さん(ライトフライ級)と1年5組の梶原武蔵さん(バンタム級)の2名。田村さんは優勝、梶原さんはベスト32位という晴れがましい功績を残した。

ついに手にした栄光。「と自分の周りがサポートして

ても嬉しかった。他の部員「くれたことに感謝したい」や顧問の先生方、両親など、と嬉しそうに語る田村さん。



周囲のサポートで見事に昨年のリベンジを果たした

昨年の近畿総体にも出場を果たしたが、その年は3位という悔しい結果で終わ

梶原、無念のベスト32

「ベスト8まで行きたかった…」

今年のインターハイでは、ベスト32という結果に終わった。試合後は「自分の実力不足。この結果はとも悔しい。出来ればベスト8まで行きたかった」と肩を落とした。

「2回戦目の増田選手(教賀)と打ち合いになってしまい、体力を消耗してしまっただけが原因」と自戒する。「10月の国体では優勝を果たしたい」と、次への目標を大きく掲げた。

初めはインターハイ

梶原さんは、今年崇徳高校に入学した1年生。高校

っていた。高校最後の総体は地元広島で開催。見事昨年の雪辱を果たし、故郷で錦を飾った。

巧みに闘った

5日間

田村さんの試合は7月30日(土)から8月3日(水)までの5日間、毎日1試合ずつ、計5試合行われた。

全ての試合がKO勝ちというわけではなく、判定勝ちの試合も。特に苦戦を強いられたのは準決勝の政所選手(王寺工)との試合だとい

う。田村さんにとって準決勝は昨年惜敗した場面。何とか判定勝ちで制したも



1年生でIH出場を果たす



ハチのように刺す左ストレート

師弟愛

共に戦う顧問から

ボクシング部の顧問は試合中はセコンドとして共に選手と戦う。ラウンドの間には選手の汗をぬぐい、マッサージやアドバイスなど献身的に選手に接する姿が印象的。顧問の信本先生は「地元開催のプレッシャーもあつたが、今回は昨年よりも良い実績を残せた。田村の優勝は顧問としても嬉しかった」と満足そう。

梶原さんについては「梶原は1年生でベスト32は(一昨年の卒業生である)原田直樹など過去の部員の1年次と比べてもすごいと思う。これからの努力と躍進に期待している」と目を細めた。(T・H) (T・I)

顧問も選手と心をつなぐ

ボクシング部インターハイ成績

- 田村拓実 (ライトフライ級)
 - 7/30 2回戦 田村拓実○-×安藤竜太 (中京) (TKO 3ラウンド 1分52秒)
 - 7/31 3回戦 田村拓実○-×村上礼太 (柴田農林) (TKO 2ラウンド 57秒)
 - 8/1 準々決勝 田村拓実○-×川口玲司 (豊橋商) (判定 3-0)
 - 8/2 準決勝 田村拓実○-×政所椋 (王寺工) (判定 2-1)
 - 8/3 決勝 田村拓実○-×久根崎寛斗 (日出) (TKO 2ラウンド 33秒)
- 梶原武蔵 (バンタム級)
 - 7/29 1回戦 梶原武蔵○-×渡部夏志 (松江東) (判定 3-0)
 - 7/30 2回戦 梶原武蔵×-○増田将 (教賀) (判定 0-3)

が気に入りのこと。

後輩へ

「今自分が持っている目標を諦めずに、その目標に向かって頑張ってもらいたい」と、エールを送る田村さん。高校王者の今後の活躍に期待が募る。